





フランス映画『ヴァンサンへの手紙』を通して考える 手話と異文化共生、そしてろう教育

ろう者といえばまず障害者として認識されがちですが、日本手話を母語・第一言語とするろう者は 言語的少数者の集団であり、独自の文化や コミュニティを形成していることはご存知でしょうか。そしてその文化が抑圧されている問題は実は世界共通です。

10月7日(日)、慶應義塾大学の松岡和美研究室主催のシンポジウムに、フランスのろう者コミュニティを追ったドキュメンタリー映画『ヴァンサンへの手紙』を買い付けた牧原依里がファシリテーター、そしてバイリンガル学校・明晴学園と公立ろう学校、それぞれ現場にいる教員と学生が登壇します。

本シンポジウムでは、『ヴァンサンへの手紙』を一部ご紹介し、異なる教育環境で学ぶろうの在校生2名およびろう学校の教員2名に対して、 ろう者のアイデンティティとろう教育について牧原がインタビューを行い、共生のあり方を探って行きます。

第 1 部 14:00-14:30

導入・映画『ヴァンサンへの手紙』一部ご紹介

第 2 部 14:30-15:10

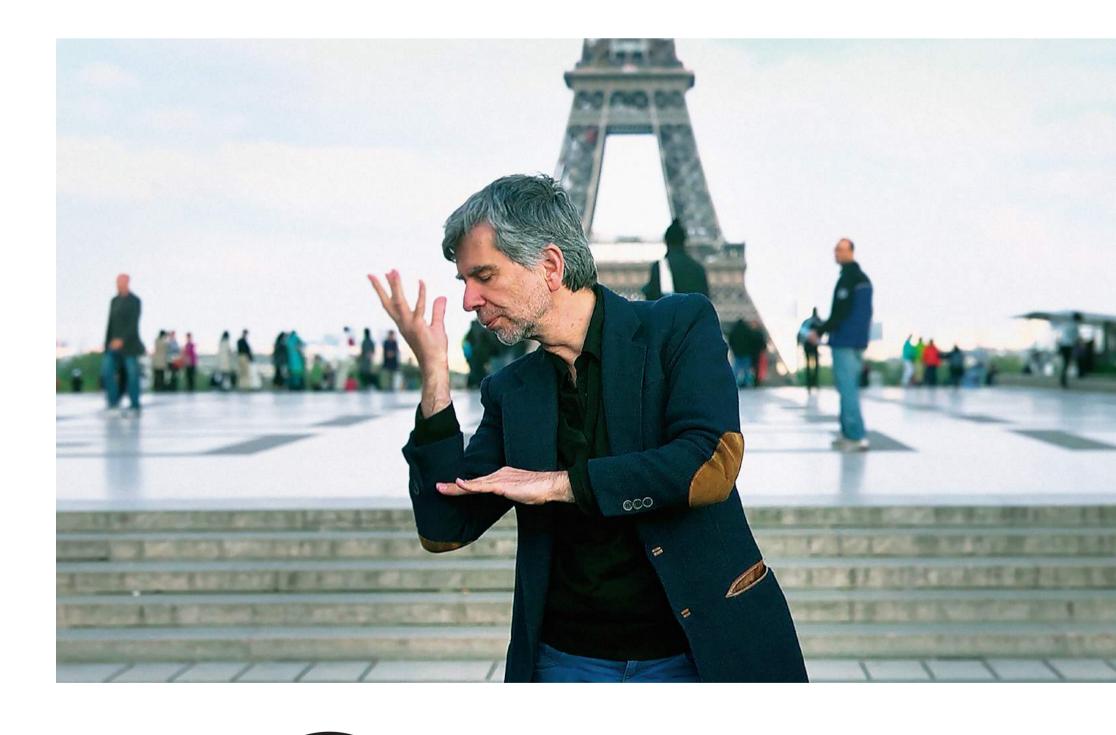
ろう在学生から見たこの世界と関わり方

第 3 部 15:10-15:50

現場で働く教員が考えるろう教育と共生

質疑応答 15:50-16:30

※日本手話と日本語の手話通訳・UDトークによる書記日本語の リアルタイム字幕がつきます。



お申し込みは こちらまで!



2018年10月7日 14:00-16:30

慶應義塾大学第6校舎J634教室

より詳しい情報を知りたい方は → https://letters-to-vincent.tumblr.com

主催 慶應義塾大学 松岡和美研究室 / 共催 聾の鳥プロダクション / 後援 慶應義塾大学教養研究センター お問い合わせ先 聾の鳥プロダクション letters.to.vincent.office@gmail.com